

会話パートナー活動を取り入れた日本語クラス —学習者の評価およびふり返りの分析—

濱田 美和
田中 信之
中河 和子
永山 香織
水田 佳歩

Japanese Language Classes with Incorporated Conversation Partner Activities: Evaluation from Learners and Analysis of Learners' Reflections

HAMADA Miwa
TANAKA Nobuyuki
NAKAGAWA Kazuko
NAGAYAMA Kaori
MIZUTA Kaho

要 約

日本人学生が会話パートナーとして参加する3つの日本語クラス（中級1クラス，上級2クラス）の学習者の活動評価フォームの回答，および，ふり回りフォームの回答を分析した。その結果，学習者は日本語母語話者と話せること，日本人の意見を聞けること，日本語学習の支援が得られることなどから，本活動を高く評価していた。一方で，日本人学生の話が十分に理解できなかったこと，テーマや相手によって話しやすさが違うことなど，中級の学習者を中心に活動上の困難点も挙げられていた。中級の学習者は話すことより聞くことに難しさを感じている様子が窺われた。聞く力を伸ばす指導が今後の課題と言える。また，中級だけでなく上級の学習者もテーマに関するコメントが多く見られた。テーマ選定も活動改善に向けての鍵になると考えられる。

【キーワード】 会話パートナー，日本語クラス，学習者，活動評価，ふり回り

1 はじめに

近年，大学では日本人学生と外国人留学生の共修の取り組みが積極的になされている。その中の1つに日本語クラスへの日本人学生の参加がある。先行研究では本稿と同様，日本人学生を会話パートナーとして位置づけるものも多く見られる（渡部・坂野 2008，永井 2013，久保田・鈴木 2016 など）。このほかに漢字学習の支援者として（向井・高橋 2013），双方の交流活動として（村田・長谷川・河内 2023），さらには，留学生対象の日本語クラスと日本人学生対象の英語クラスとの合同授業として（末繁・プリチャード・ルシンスキー 2016）おこなうものなど多岐にわたる。そこに共通しているのは，日本人学生から留学生への一方向の学びにはせず，双方向に学びがあることを明示的に暗示的に企図している点だろう。グローバルな世界を今後志向していくべき大学生にとって重要な実践経験の場と言える。

先行研究を概観してもその実践のあり様はさまざまである。現段階では，特に当事者（学習者，日本人学生，教員）のあり様を1つ1つつぶさに描写して分析する作業が必要だと思われる。その多様な実践の分析から，汎用性のある実践モデルの構築が期待される。

本研究は，留学生向け日本語プログラムの一部授業における会話パートナー活動を扱ったもので，先に筆者ら（2023）では本活動に参加した日本人学生23名のふり回りフォームの回答，および，ふり回りの会合の記録を基に，活動改善に向けての具体策を探った。本稿では，学習者の活動評価フォームの回答，および，ふり回りフォームの回答を分析する。本活動を学習者がどのように評価したかに

ついて、主に彼らがインターアクションの困難点、達成点としたことに着目することにより、今後の活動改善に向けての示唆を得たい。

2 日本語授業の概要

本実践をおこなった日本語クラスは、日本の大学で学ぶ外国人留学生を主な対象とした日本語プログラムの科目である。プログラムは、初級、中級、上級3つのレベル別に各期15週開講されているが、担当教員の希望、予算を考慮し、2023年度は中級「聴解会話」(B1レベル)、上級「会話」(B2/C1レベル)、上級「日本文化(現代日本社会を読み解く)」(B2/C1レベル)の3クラスで会話パートナー活動を導入した。いずれのクラスも15回の授業(1回90分)のうち6回に日本人学生(日本語クラスでの名称「Nihongo Buddy」、以下「バディ」)が参加する計画とし¹⁾、参加日は担当教員がそれぞれ決めた。バディの選考も担当教員が応募動機などを基に各クラスの授業内容や受講者に合わせておこなった。選考方法に関する担当教員へのヒアリングでは、選考の際に重視した点として「日本語を教えてあげるといふ姿勢ではない学生」という共通点が見られた。

2023年度前期の受講者(学習者)は聴解会話12名、会話9名、日本文化7名である。バディは聴解会話8名、会話8名、日本文化7名である。活動内容は、各回テーマに関する資料等を基にグループで話し合い、その結果をクラスで共有するというもので、バディの主な役割は学習者と共に話し合いに参加し、話し合った内容を学習者がまとめる際に必要に応じてサポートすることである。

聴解会話で取り上げたテーマは第1回「自己紹介、アニメ漫画の日本語」、第2回「写真を基に会話をつくる」、第3回「オノマトペ」、第4回「気持ちとテンション・アスペクト」、第5回と第6回「『浦島太郎』裁判(NHK for school)」である。第1回～第4回は4グループ、第5回と第6回は5グループに分かれ、1グループに学習者2～3名、バディ1～2名という構成だった。

会話で取り上げたテーマは第1回「自己紹介」、第2回「活動のテーマを考えよう」、第3回「専業主夫アリかナシか」、第4回「タイムスリップできるなら過去?未来?」、第5回「1日だけなれるとしたら誰になりたい?」、第6回「座右の銘をみつけよう」である。第1回は8グループ、第2回は3グループ、第3回～第6回は6グループに分かれ、1グループに学習者、バディともに1～3名という構成だった。

日本文化で取り上げたテーマは第1回「自己紹介、興味があること」、第2回「文化とは—文化とサル」、第3回「理解できないこと・違和感を感じること」、第4回と第5回「新入社員研修—A社・B社どちらがよい?」、第5回と第6回「ストレスのパターンと解消法」である。第1回と第3回と第5回は4グループ、第2回は5グループ、第4回は6グループ、第6回は3グループに分かれ、1グループに学習者、バディともに1～2名という構成だった。

3 調査方法

授業に参加した学習者20名(S1～S20)全員に研究協力依頼をおこない承諾を得た²⁾。20名中1名(S1)は聴解会話、会話、日本文化の3クラスを受講、6名(S14～S19)は会話と日本文化の2クラスを受講、11名(S2～S12)は聴解会話のみ、2名(S13とS20)は会話のみを受講した。調査はクラスごとに実施し、毎回の授業終了時と全活動終了後にWebフォームで回答(いずれも記名式)の提出を求めた。毎回の授業終了時の質問内容は「相手に伝わるように話せたか」と「相手の話をよく聞けたか」について5段階評価、また、その理由について自由記述形式で問うた。全活動終了後の質問内容は「活動は面白かったか」と「活動は勉強になったか」について5段階評価、また、その理由について自由記述形式で問うた。

4 分析結果

4.1で全活動終了後に実施した活動評価に関する調査結果、4.2で毎回の授業のふり返りの分析結果について述べる。

4.1 活動評価

聴解会話は12名全員、会話は9名中8名、日本文化は7名中6名、計26名から回答が得られた。

まず、「活動は面白かったか」という問いに対しては、26名中「とても面白かった」が15名、「面白かった」が10名、「まあまあ」が1名で、「あまり面白くなかった」と「ぜんぜん面白くなかった」を選んだ学習者はいなかった。図1に割合を示す。「とても面白かった」と「面白かった」で9割以上を占め、6割近くが「とても面白かった」と非常に高く評価している。

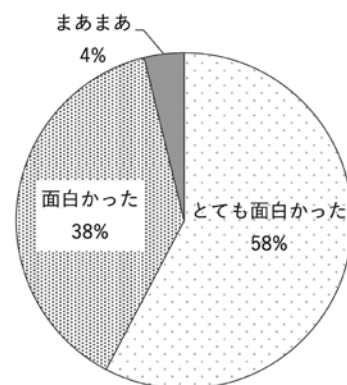


図1 活動は面白かったか

表1にクラス別の回答結果を示す。聴解会話は「面白かった」、会話は「とても面白かった」を選んだ学習者が最も多く、日本文化は全員が「とても面白かった」を選んでいった。

理由(自由記述)を見ると、楽しかった(S1, S2, S3, S4, S8, S11, S14, S20)、授業に活気があった(S6, S12)、いろいろな内容について話せた・聞けた(S13, S18, S19, S20)、日本人学生と話す機会が得られた(S1, S10, S15, S16, S19)、日本人学生の意見を聞けた(S16, S17, S19)、生の日本語を練習できた(S9)、日本人学生が優しかった(S17, S18, S19)、友だちが作れた(S15)、といった活動を肯定的に評価する記述が多く見られた。一方で、日本人学生の話が一部理解できなかった(S5, S11, S14)、自分の考えを十分に伝えられなかった(S20)、授業の内容について話しにくい場合があった(S3)、最初はとても緊張した(S17)といった活動中の困難点に触れる記述や、相手によって違う(S7)といった記述(表1の____)も見られた。

表1 活動は面白かったか

クラス	面白かったか	その理由
聴解会話 (12名)	とても面白かった (4名)	S1: 日本人学生と一緒に楽しい活動をした S4: 皆さんは話しやすいし、わくわくみたいに参加してたし、楽しかったからです。 S6: 皆んな元気いっぱい出した。 S10: 留学生だけど日本人と話せる機会が少なくてこんな機会が大事でいい経験だと思う
	面白かった (8名)	S2: 日本人に合うのが必ず楽しいです。新しい友達を作るかもしれません。 S3: Buddy と話すのは楽しいけど、 <u>授業の内容について話しにくい場合もありました。</u> たぶん理論のようなことは良い練習です、 S5: 面白かったですけど、 <u>時々 Nihongo buddy 達はちょっと速くて複雑過ぎて話していた。</u> S7: <u>人々によって、本当に違う。例えば、静かすぎと元気すぎの人があ</u> <u>るからだ。</u> S8: 行った課題はいつも楽しくて、よく話して、笑った。 S9: 普通の日本語を練習できた。 S11: 日本人の人たちと一緒に演じると色々なゲームをすることはとても楽しかったです。 <u>時々日本人の二人がいた場合、日本語で難しい言葉を使ってたから、わかりにくかったです。</u> でも、それ以外、お互いに日本語を教えることをよく楽しんでた。 S12: 授業をもっとにぎやかにしていた。

会話 (8名)	とても面白かった (5名)	S1: 日本人学生と話す機会が多かった S15: 新しい友達が作れるからです S16: 留学している間に、日本人と会話する機会があまりなかったので、それに対しては、いい経験になったと思います。 S17: <u>最初はとても緊張しましたが、日本人の学生はいつも真剣で親切なため、段々楽しめるようになります。</u> S19: まずは話のテーマが多様で、展開しやすいです。それに、日本人の皆さんも優しく、ゆっくり話してもらいましたから、日本語を話すことがより好きになってきました。
	面白かった (2名)	S13: いい内容が喋れる S18: いろいろなことについて仲良く話し合いました。
	まあまあ (1名)	S20: <u>いろんなことを勉強できて、楽しかったんですが、やっぱり自分の日本語のレベルが低くて、日本の学生に自分の考え方をあまりちゃんと伝えないです。</u>
日本文化 (6名)	とても面白かった (6名)	S14: 会話は楽しかったですけど、 <u>時々ちょっと分かりにくかったと思っています。</u> S15: 直接に日本人学生と話せるから面白かった S16: 日本人の意見を知る機会がないので、授業はそれに役立ったと思います。 S17: 日本人 buddy の世界観時々新鮮なかんじ与えるからです。 S18: 日本人の学生さんたちは優しいです。仲良く話し合いました。 S19: 日本人若者と真面目に話し合うチャンスがあまりないので、面白いです。

次に、「活動は日本語の勉強に役に立ったか」という問いに対しては、26名中「とても役に立った」が16名、「役に立った」が7名、「まあまあ」が3名で、「あまり役に立たなかった」と「ぜんぜん役に立たなかった」を選んだ学習者はいなかった。図2に割合を示す。「とても役に立った」と「役に立った」で9割弱を占め、6割近くが「とても役に立った」と非常に高く評価している。

表2にクラス別の回答結果を示す。理由(自由記述)を見ると、日本語を話す練習になった(S1, S13, S15, S18, S19, S20)、ネイティブと話す機会が得られた(S3, S4, S15, S16, S17)、日本人学生に助けってもらった(S2, S6, S8, S10)、新しい語彙や表現を覚えられた(S11, S16, S17, S19)、自然な言い方を勉強できた(S9, S14, S17)、普段触れないテーマについて話せた(S17)、自分が思っていた日本人の意見と実際の意見が異なることを知った(S16)といったことが役に立った理由として挙げられていた。一方で、皆で話した時のことがあまり思い出せない(S5)、留学生が話すのが中心であり会話にならなかった(S11)、日本人も教師の質問に答えるので留学生が応答する力がつかない(S2)、授業テーマと相手によって変わる(S7)といった問題に触れる記述(表2の____)も見られた。

「活動は面白かったか」と「活動は日本語の勉強に役に立ったか」、いずれも活動を高く評価している学習者が多かったが、活動の困難点や問題に触れる記述(表1と表2の____)も見られた。「活動は面白かったか」については、中級(聴解会話)だけでなく上級(会話、日本文化)の学習者も日本人学生の話がわかりにくいことがあったことや自分の考えを十分に伝えられなかったことを困難点として挙げていた。「まあまあ」を選択した1名も上級(会話)の学習者だった。一方、「活動は日本語の勉強に役に立った」については問題を挙げていたのは中級の学習者だけで、「まあまあ」を選択した3名も全員中級の学習者だった。肯定的なコメントにも中級と上級の学習者で違いが見られた。いずれ

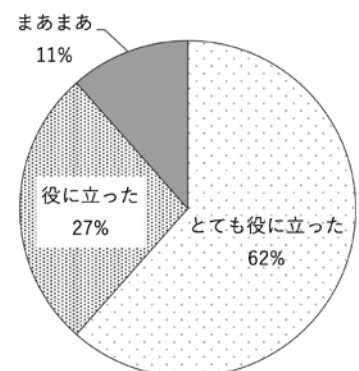


図2 活動は日本語の勉強に役に立ったか

表2 活動は日本語の勉強に役に立ったか

クラス	役に立ったか	その理由
聴解会話 (12名)	とても役に立った (4名)	S1: 普段の勉強以外でも日本語の練習ができた。 S3: 日本人と話すことは一番大切だと思うからです。 S4: 他の留学だけと話すのは日本語練習にあまり良くないので、日本語が母語である日本人と話せる必要はあると思います。 S10: 現地人の発音を真似するだけでなく、間違っていない発音も直してもらってとても役に立った。
	役に立った (5名)	S5: いいだと思いましたが、 <u>みなさんの話しときがあまり思い出せません。</u> S6: 時々教えてもらった S8: 何かを知らない場合には説明されたことなど S9: 普通の日本語を練習できた。 S11: <u>大体、ゲームの中で特に留学生の話ものだから、あまり会話にならなかったです。</u> でも、日本人がインプットしたときに、私がなかなか新しいことをよく習っていた。
	まあまあ (3名)	S2: <u>ときどき、日本人も先生の質問に答えますから、留学生の質問応答能力が見られません。</u> しかし、先生の説明や練習の目標をわかかなかったら、日本人は留学生を援助できます。 S7: <u>授業のテーマと人々によって、いつも変わった。</u> S12: 会話に役に立ったのに、 <u>その以外もちろんあまり話なかった。</u>
会話 (8名)	とても役に立った (6名)	S1: 楽しい時間を過ごすために日本語を話さなければならなかった。 S13: 会話と聴解が進みました。 S15: 直接に日本語ネイティブと話せるから、その活動で自然に日本語能力が上達する。 S16: はい、私が思ってた日本人の意見と実際の意見が異なったりしたときもあり、日常会話で使う新しい言葉と表現もたくさん学びました。 S17: みんなとゆっくり話し合って、普通は触られないテーマについて話せるから、日本語能力に役立ちます。また、自然の言い方とか沢山勉強になります。 S19: 新しい語彙がたくさん勉強になりました。また、自分の意見を日本語で日本人がわかるように説明することを練習できました。
	役に立った (2名)	S18: 勉強した日本語を思い出して、話せるようになりました。 S20: 日本語の練習もうできたり、いろんなことを勉強したりして、自分の日本語の勉強に役に立ったんです。
日本文化 (6名)	とても役に立った (6名)	S14: 普通の日本語を聞いたので S15: 日本語ネイティブと会話する機会になるから、役に立った S16: 日本人と接触する機会があまりなかったので、もちろん会話をとるのも難しかったです。なので、日本人と話せるいい機会になったと思いました。 S17: nativeの日本語で相談してくれるからです。色々勉強になります。 S18: 流暢に話せるようになります。 S19: 日本語の会話についてたくさん勉強になりました

の学習者も日本語の勉強に役に立つ理由として日本語母語話者と話せることを挙げていたが、日本人学生の意見を聞けることを挙げていたのは上級の学習者が中心で、中級では少なかった。中級ではわからない語の説明といった日本人学生から教示を受けたことが複数挙げられていた。上級の学習者はタイプの違う日本人学生と接することで、多様な意見を聞けることを肯定的に評価しているようだが、中級の学習者からは相手によって活動の進めやすさが異なるといった否定的な評価も見られた。

4.2 毎回の授業のふり返り

聴解会話（受講者 12 名）は、第 1 回 10 名、第 2 回 9 名、第 3 回 10 名、第 4 回 9 名、第 5 回 7 名、第 6 回 6 名から回答が得られた。会話（受講者 9 名）は、第 1 回 9 名、第 2 回 8 名、第 3～5 回 9 名、第 6 回 8 名から回答が得られた。日本文化（受講者 7 名）は、第 1 回 6 名、第 2～3 回 7 名、第 4 回 6 名、第 5 回 5 名、第 6 回 6 名から回答が得られた。図 3 と図 4 は聴解会話、図 5 と図 6 は会話、図 7 と図 8 は日本文化の結果である。

3 クラスとも「話せた」「聞いた」と回答した学習者が大半で、「話せなかった」「聞けなかった」と回答した学習者は少数だった。

「相手に伝わるよう話せたか」と「相手の話をよく聞いたか」の両方に「とてもよく」を選んだ学習者が記した理由を表 3 に示す。まず、全体的に「楽しかった」という声が多く聞かれた。表 3 の太字は感想を示す。ほかには回が進むにつれ、緊張感しなくなったことやクラスの雰囲気がよくなったことを挙げる学習者もいた。

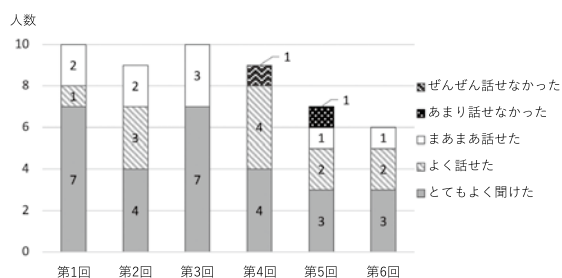


図 3 相手に伝わるよう話せたか（聴解会話）

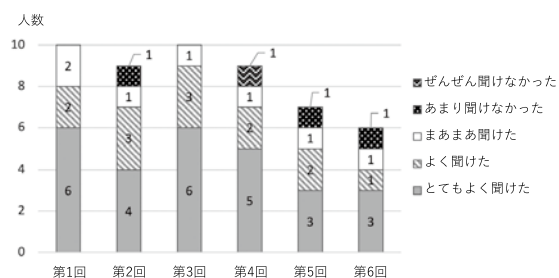


図 4 相手の話をよく聞いたか（聴解会話）

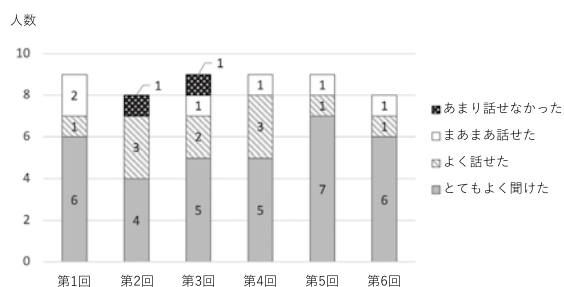


図 5 相手に伝わるよう話せたか（会話）

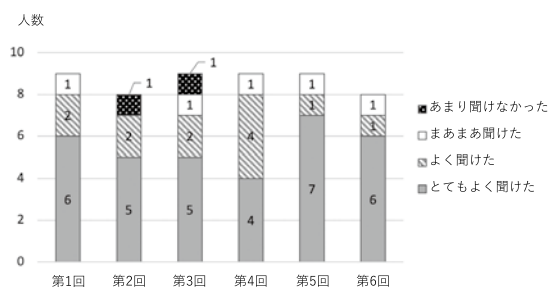


図 6 相手の話をよく聞いたか（会話）

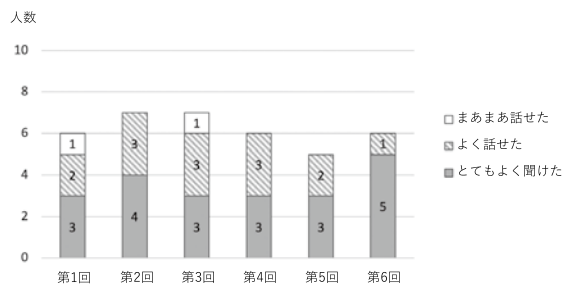


図 7 相手に伝わるよう話せたか（日本文化）

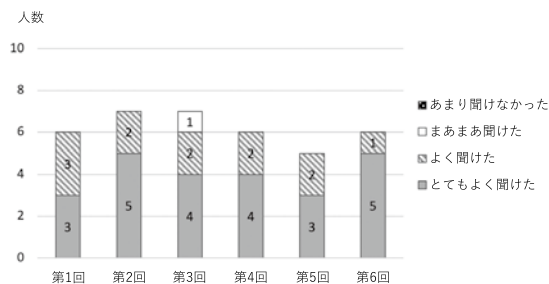


図 8 相手の話をよく聞いたか（日本文化）

表3 「とてもよく話せた／聞けた」を選んだ理由

クラス	回	理由
聴解会話	1	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます！／S4: みんなには若者なので、敬語使わなくて <u>自由に話せる</u> と感じたから／S8: <u>話す話題はまだちょっと簡単</u> でした。／S10: 授業に関する内容を <u>ゆっくり</u> 、例えば <u>説明しながら授業を進めて</u> ／S11: <u>相手はとても話しやすい</u> で問題も <u>楽しかった</u> です
	2	S1: ありがとうございます／S4: <u>めっちゃ楽しかった</u> からいいことしか言えない／S10: <u>楽しく日本語を学ぶ</u> ことができた
	3	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます。／S4: 授業ではみんなは必ずオープンに話すから、とても <u>楽しい</u> です／S5: <u>いいの説明がもらいました</u> 、B3さんとB5さん*は分かる安くて話しました。／S8: 二人だけでした。／S10: <u>オノマトベ</u> 普段勉強したかったが <u>適切な例文を挙げながら勉強して記憶に長く残るよう</u> だ／S11: <u>みんなははっきり話します</u> から
	4	S1: <u>良かった</u> です ありがとうございます／S6: <u>文法は簡単</u> の感じ。／S10: <u>参考資料をよく使って</u> 学習しました
	5	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます！ <u>良かった</u> ／S6: <u>説明やすい</u> ／S10: <u>楽しかった</u> です♡(((o(*°▽°*)o)))
	6	S1: <u>面白い意見を聞きました</u> ／S6: 使うの <u>文法が簡単</u> だから／S8: <u>よくちょっと議論</u> しました。 <u>よく話</u> しました。
会話	1	S13: <u>いい体験</u> ／S14: <u>コミュニケーション問題がなかった</u> 。そして、 <u>話題は優しかった</u> と思います。／S15: <u>日本語にもう慣れた</u> からだと思います。そして、 <u>相手も易しい日本語を使う</u> ので、 <u>伝えたいことが通じて</u> 、 <u>話も聞きとれます</u> 。／S16: <u>良いペースで話して</u> 、 <u>伝いにくいことがあった時</u> 、 <u>例を考えて自分が言いたいこと説明</u> しました。聞く時は、 <u>相手が終わるまで</u> 、 <u>あいづちしながら聞きました</u> 。／S19: 私のパートナーのB11さんはとてもやさしくて、 <u>ゆっくり話</u> ていましたから、 <u>だいぶ聞き取れて</u> 、 <u>快適に話せる</u> ようになりました
	2	S1: <u>良かった</u> ！ありがとうございます。／S13: <u>いろいろな喋り方</u> をわかりました。／S15: <u>先週よりあまり緊張して</u> いなかったから、 <u>もっとうまく話せる</u> ようになった。／S16: <u>相手同士</u> 、 <u>最後まで話終わるまで聞けた</u> ためだと思う。
	3	S1: <u>反省するような意見もたくさん聞</u> きました ありがとうございます／S13: <u>いい</u> 、 <u>喋れる</u> ／S15: <u>今回日本人学生がもっと話しやすい</u> ／S16: <u>わからなかった言葉があったとき</u> 、 <u>日本人の皆さんはまた言葉を言</u> ってもらって、 <u>わかりやすかった</u> です。／S19: <u>自分の意見をよく話</u> せました。そして、 <u>クラスの皆さんの意見も聞きと</u> れました
	4	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます。／S14: <u>問題ない</u> 。普通より <u>優しい</u> と思った／S15: <u>今回のテーマが面白い</u> ですから／S16: 一旦、 <u>わからなかった言葉がでて</u> 、 <u>それを言い出した日本人の方は</u> 、 <u>丁寧に説明</u> しました。 <u>初めての授業より</u> 、 <u>緊張感もなくな</u> ってきました。
	5	S1: <u>面白く会話してもらった</u> ありがとうございます。／S13: <u>今日の内容はさまざま</u> でした。 <u>いっぱい喋</u> れました。 <u>楽しかった</u> です／S14: <u>問題ない</u> です／S15: <u>今回のテーマは面白い</u> から／S16: <u>お互いによく話を聞いて</u> 、 <u>答えを出した</u> からだと思います。／S17: <u>面白い話</u> だったです。／S19: <u>テーマがすごく面白い</u> ですから、 <u>皆さんは活気づ</u> いて話せました。 <u>聞き取れも大丈夫</u> でした
	6	S1: <u>日本人と最後のクラス</u> ので悲しい <u>たくさん学び</u> ました、 <u>楽しかった</u> ありがとうございます／S13: <u>最後の授業</u> だから、 <u>寂しく</u> なりました／S14: <u>単語問題がな</u> かった。 <u>話題は優</u> しかった。／S15: <u>今回のテーマが面白</u> かったです。／S17: <u>今日のテーマと先生と学生</u> 方々のおかげで <u>みんなの面白い話</u> を聞けました。／S19: <u>話すテーマ</u> について言いたいことは多すぎ、 <u>全員話</u> なかったので、 <u>残念</u> でした。しかし、この最後の授業はとても <u>楽し</u> かったです

日本文化	1	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます／ S15: 日本人の話し方は聞きやすく、わかりやすいと思う。／ B19: 私たちのグループのB20さん*は <u>ゆっくり話してくださいましたから、よく聞き取れました</u> 。また、初めての面談ですから、 <u>話のテーマがやさしくて</u> 、皆さんが <u>快適に話せ</u> 、 <u>雰囲気も良くなりました</u> 。
	2	S1: <u>楽しかった</u> 、 <u>優しい話し</u> ありがとうございます／ S15: 前回より、もっと <u>上手く話せるようになった</u> 。 <u>雰囲気はもっと緩和</u> だと思う。／ S16: <u>相手どうしを聞いて、会話、討論を進めました</u> 。／ S17: 今日 <u>はよく話し合った</u> からです。
	3	S1: <u>楽しかった</u> ありがとうございます／ S15: 今回の日本人相手が <u>はなしやすい</u> ／ S19: B22さん*がやさしくて、明るい友達ですから、 <u>楽に話せました</u> 。とても <u>楽しかった</u> です
	4	S1: <u>相手は多くのアイデアを共有してくれた</u> ／ S15: <u>もう慣れる</u> から／ S19: 留学生たちが準備がありましたから、 <u>聞くことも話すこともより簡単になります</u>
	5	S1: B20さん*はいつもわかりやすいの話しありがとうございます。／ S15: 話し相手は面白いから、 <u>よく話せます</u> 。／ S19: <u>テーマが面白くてよく聞き取れました</u> 。 <u>話すことも大丈夫でした</u>
	6	S1: <u>面白かった</u> 。／ S14: 問題なかった。／ S15: 日本人学生と交流セッションの最後からです。／ S16: buddyのお二人は、 <u>話せなかったことがあった時、言いたかったことをちゃんと発言するように手伝ってもらいました</u> 。／ S19: とても <u>楽しかった</u> です!!!!

*Bはバディを表す。B3, B5, B20, B22にはバディの名前が記載。

次に、自分（全員）が話すこと（表3の___）については、よく話せたこと、学生同士で自由に話せること、話しやすい相手であったことなどが挙げられていた。一方、相手の話を聞くこと（相手の話し方も含む、表3の___）については、よく聞き取れたこと、相手がわかりやすく話したこと、相手の話を注意深く聞いたことなどが挙げられていた。

このほかに挙げられていたのがバディのサポート、話し合いや意見交換、授業内容・テーマに関する記述である。バディのサポート（表3の_____）については、相手がわからない言葉を言い直したりわかりやすく説明してくれたりしたこと、自分が伝えたいことを発言できるように手助けしてくれたことなどが挙げられていた。話し合いや意見交換（表3の___）については、よく話し合えたことやいろいろな意見やアイデアを共有できたことが挙げられていた。授業内容・テーマ（表3の___）については、面白かったことや勉強したかった内容だったこと、語彙や文法が簡単だったことが挙げられていた。

「話せなかった」「聞けなかった」と回答した学習者は少数だったため、「(あまり／ぜんぜん)話せなかった／聞けなかった」に加えて「まあまあ」を選んだ学習者も含めて、彼らが理由に書いた内容の中で低く評価したことに関わる記述を表4に示す。

自分が話すこと（表4の___）については、話せる時間が少なかったこと、相手にうまく伝えられなかったことが挙げられていた。一方、相手の話を聞くこと（相手の話し方も含む、表4の___）については、言葉や内容が難しかったり話すのが速かったりして聞き取れなかったこと、マスクをつけていて聞きにくかったことなどが挙げられていた。

話し合いや意見交換（表4の___）については、あまり話し合いができなかったことが挙げられていた。授業内容・テーマ（表4の___）については、難しかったという意見が複数見られたが、反対に簡単すぎて話が続かなかったといった意見もあった。また、そのテーマについてよくわからなかったという意見もあった。

表4 低く評価した理由

クラス	回	理由
聴解会話	1	S2: 総合的に理解できましたが、あまり話し合いましたから、いまいち判断できません。／S3: シーンを読むことは簡単すぎたので、実際にあまり話しませんでした。／S12: マスクから少し聞きにくいのに、それはみんなに問題です。あまり伝わるのは、わたしのレベルからです。
	2	S2: 他人(グループメンバー)は私より話していましたから、あまり話しました。それに、聴いていた時に相手がよくわからない言葉を使いましたから、ほとんどわかりませんでした。一方、まだ楽しかったです。／S6: 俺の聞き能力はまだ下手です／S8: 今日演技についてたくさん書いて考えていたから、ちょっと話す時間下がりました。でも楽しかったです
	3	S7: 今日は、ボランティアは少し静かなので、長い会話するのは少し難しかったです。／S9: S4さんはたくさん話したので私あまり話せなかった
	4	S2: また、ちょっと早く論じられましたから、時々わかりにくいですが、面白い話題でした。／S8: 今日は授業があいにく講義みたいでした
	5	S2: 今日はちょっと難しく、たまに集中しにくいでしたが、話題はかなり面白かったです。／S7: 今日はまだたくさん聞きましたが、あまり話せる時間がありませんでした。
	6	S2: 今日は相手との言うのがかなり早いと思いました。そして、内容は私にとって難しかったですから、相手をわかりにくいでした。
会話	1	S20: 自分の日本語はもっと勉強必要あります
	2	S20: 語彙の数足りないかな。
	3	S17: 専業主婦についてのよく分からなかったからです。
	4	S20: 勉強必要あります。
日本文化	3	S17: 難しかったです。

さらに、学習者ひとりひとりの「相手に伝わるように話せたか」と「相手の話をよく聞けたか」の回答について、毎回同じなのか、それとも回ごとに異なるのかを見るため、「とてもよく話せた／聞けた」と回答した場合を5点、「よく話せた／聞けた」を4点、「まあまあ話せた／聞けた」を3点、「あまり話せなかった／聞けなかった」を2点、「ぜんぜん話せなかった／聞けなかった」を1点とし、クラス別に整理したのが表5と表6である³⁾。

表5 相手に伝わるよう話せたか

各回の得点	聴解会話	会話	日本文化	計	
すべて5点	4名 (S1, S4, S6, S10)	3名 (S1, S15, S16)	2名 (S1, S15)	9名	20名
4～5点	3名 (S3, S5, S11)	3名 (S13, S14, S19)	3名 (S14, S16, S19)	9名	
すべて4点		1名 (S18)	1名 (S18)	2名	
3～5点		1名 (S17)	1名 (S17)	2名	7名
3～4点	2名 (S2, S12)			2名	
2～5点	1名 (S7)			1名	
2～4点					
2～3点		1名 (S20)		1名	
1～5点	1名 (S8)			1名	
計	11名	9名	7名	27名	

表6 相手の話をよく聞けたか

各回の得点	聴解会話	会話	日本文化	計	
すべて5点	3名 (S1, S4, S10)	2名 (S15, S16)	3名 (S1, S15, S19)	8名	19名
4～5点	3名 (S5, S11, S12)	4名 (S1, S13, S14, S19)	2名 (S14, S16)	9名	
すべて4点		1名 (S18)	1名 (S18)	2名	
3～5点	2名 (S3, S6)	1名 (S17)	1名 (S17)	4名	8名
3～4点					
2～5点	1名 (S7)			1名	
2～4点	1名 (S2)			1名	
2～3点		1名 (S20)		1名	
1～5点	1名 (S8)			1名	
計	11名	9名	7名	27名	

「話せたか」はすべて5点と4～5点がいずれも9名と最も多く、「聞けたか」は4～5点が9名で最も多く、2番目はすべて5点で8名である。毎回4点以上と高い得点をつけた学習者は「話せたか」は27名中20名(74%)、「聞けたか」は19名(70%)で、全体の7割を占めている。一方、毎回3点以下の低い得点を継続してつけた学習者は1名(S20)のみだった。表4にあるように、S20は「自分の日本語はもっと勉強必要あります」「語彙の数足りないかな」と自身の日本語力の不足を理由として挙げていた。自分自身への評価基準が厳しく、日本語力の向上の必要性を強く感じているのだと思われる。

3点以下の低い得点をつけた学習者(表5と表6の太枠)は、S20以外の7名、S2, S3, S6, S7, S8, S12, S17は回によっては4点、5点の高い得点もつけている。回によって高い得点をつけたり低い得点をつけたりする学習者は、その回のテーマや話し相手の違いに左右されやすい可能性がある。7名のうち6名が中級、1名が上級の学習者である。

さらに「話せたか」と「聞けたか」それぞれ見ていくと、「話せたか」についてはS2, S7, S8, S12, S17の5名、「聞けたか」についてはS2, S3, S6, S7, S8, S17の6名が3点以下の得点をつけた回がある学習者である。S7, S8, S17の3名は「話せたか」と「聞けたか」の得点が同じで、S2, S3, S6, S12の4名は両方で得点が異なる。この4名は中級の学習者である。4名のうち3名(S2, S3, S6)は「聞けたか」のほうが得点が低かった。表4の低く評価した理由のうち、相手の話を聞くことに関する記述も(表4の___)すべて中級の学習者によるもので、中級の学習者にとっては特に聞くことについて、相手の話し方、テーマが聞きやすさや話しやすさに大きく影響することが窺われる。

5 おわりに

会話パートナーの活動は、学習者、日本人学生、そして教員からも好評を得ているが、学習者の活動評価、ふり返りの分析結果からも、学習者が本活動を高く評価していることが確認できた。今後の課題としては、会話や意見交換の活性化につながるテーマの選定が挙げられる⁴⁾。教員間の情報共有を進め、検討をおこないたい。また、特に中級の学習者に対しては聞く力を伸ばすための指導を考える必要がある。積極的に話したいという学習者が多いことは活動にとってプラスではあるが、その一方でほかのメンバーの話や意見を聞くことにあまり目を向けられていない学習者もいるように思われる。聞くことに留意するよう事前指導もおこなったが、十分には伝わらなかった。学習者が相手の話を聞くことも楽しめるような活動を考えていきたい。

注

- 1) 全学の学生を対象に、日本語を母語とすること、3クラスのいずれかに継続して参加できること、この2つを条件に募集した。
- 2) 出身地域別内訳はヨーロッパ9名、アジア8名、中南米2名、北米1名である。専門分野別内訳は人文社会系18名、理工系、医薬系各1名である。受講者の多くは留学期間3か月～1年の短期留学生である。
- 3) 各クラス計3回以上毎回の授業のふり返りに回答した学習者（会話と日本文化は受講者全員、聴解会話はS9を除く11名）を分析の対象とした。
- 4) 守谷（2015）では、会話パートナー活動を取り入れた中級日本語クラスにおけるテーマと活動例が紹介されている。その中で、留学生自身で選んだテーマについて質問項目を考え、日本人学生にインタビューするという活動が留学生からの評価が高かったことが報告されている。

参考文献

- (1) 久保田美映・鈴木理子（2016）日本語ボランティア活動がグローバル人材育成につながる可能性―留学生対象日本語授業に参加した日本人大学生Aさんの事例から―、Obirin today：教育の現場から、pp.73-89
- (2) 末繁美和・ブリチャード ケーレブ・ルシンスキー ジョン（2016）留学生および日本人学生のインタラクティブな授業の試み、岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要、第1号、pp.83-92
- (3) 永井涼子（2013）日本語会話ボランティアの制度化が持つ意義と課題、大学教育、10巻、山口大学大学教育機構、pp.67-78
- (4) 中河和子・濱田美和（2019）日本人学生と留学生を対象にした「グローバル日本語」養成のためのワークショップ報告、富山大学国際機構紀要、第2号、pp.27-44
- (5) 濱田美和・田中信之・中河和子・永山香織・水田佳歩（2023）会話パートナー活動を取り入れた日本語授業デザインの検討、大学教育学会2023年度課題研究集会発表要旨集、pp.76-79
- (6) 向井留美子・高橋志野（2013）日本語学習者の漢字学者支援場面における日本人サポーターの学びについての一考察、大学教育実践ジャーナル、Vol.11、pp.79-85
- (7) 村田晶子・長谷川由香・河内彩香（2023）留学生と国内学生の国際交流を支援するための活動集の開発、多文化社会と言語教育、Vol.3、pp.82-96
- (8) 守谷智美（2015）留学生支援としての日本語教育の可能性、大学教育研究紀要、第11号、pp.139-150
- (9) 渡部倫子・坂野永理（2008）日本語会話パートナー制度を活用した日本語授業、大学教育研究紀要、第4号、pp.23-31